



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

マイナンバーカードとオンライン資格確認

[当法人理事]

中島内科クリニック

中島 泰 [医師]

来年秋に健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化する方針(マイナ保険証)が発表された。一方で、マイナンバーに別人の情報を紐づけているなどのトラブルが頻発し、国民の不安感を払拭するべく、首相自らが対応策を説明する事態となっている。どうやら、保険証廃止時期は延長せず、マイナ保険証を持たない人には「資格確認書」で対応し、当面はその有効期限上限を延長することで問題解決に猶予を与える方向らしい。

本年4月から医療機関にオンライン資格確認導入が義務付けられた。助成金や保険点数加算などにより、7月時点で9割の医療機関がカードリーダーの申し込みを終え、東京は病院の82.2%、医科診療所の67.2%で運用が始まっている。しかし、マイナンバーカード交付率は、4月時点で人口の65.10%(東京)にとどまる。年齢別の交付率は、DX(Digital Transformation)の遅れが予想されるような地方や高齢者層の方が高く、あながち悪い傾向ではない。ただし、当院でも実際にカードリーダーを使う方はごくわずかである。むしろ、オンライン資格確認システムにより保険証期限が確認でき、こちらは有用である。

先日、WebのJBpressで榎並利博氏がこの騒動を解説されていた。すでに国民にはマイナンバーが付与されており、それをを用いた身元確認方法としてマイナンバーカードが提供されている。デジタル空間で本人確認をするには電子的な鍵が必要であり、1枚のカードでリアル空間での身元確認が、かつ、ICチップによるデジタル空間での身元確認や本人認証も可能である。日本よりも番号制度が進んでいる諸外国では、逆にオンライン空間での本人認証機能はなく、ICカード化されている国はそれほど多くないという。

マイナンバーというすでに施行されている番号制度とカード発行を混同している人もいるようだ。また、マイナポイントで釣るような交付促進、番号は秘密にしないと危険だという誤解、なによりも番号制度に対して適切な説明を欠いたことが、過剰な不信感を招いたように思える。私は、期限切れ保険証やなりすまし防止などにマイナ保険証は有用だとは考えている。しかし、番号と各種情報を紐づける作業が手入力であったり、実際に扱う現場のシステムが非常に不親切である。また、電子証明は省き、リアル空間でのみ身元確認するカードもあればよかったかもしれない。「資格確認書」で保険者に余計な負担をかけるより、マイナンバーによる本人認証の仕組みを周知し、インフラ整備に政府がもっと責任をもつべきだと思う。コロナ禍でも頻発された一時的な制度変更は、本当に現場を混乱させる。マイナ保険証の迷走について、方針決定した以上は軸をぶらさず、堅実なシステム構築がなされることを願う。

1) 榎並利博, JBpress, 2023/07/29.

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 ● 次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

60歳、男性。会社の健診で血糖値 236mg/dL、HbA1c 9.2%を指摘され、妻とともに糖尿病内科を受診した。父親が糖尿病で療養していた。会社まで電車通勤。妻と二人暮らし。食事は妻が作っている。子供はいるが既に独立して、他県に住んでいる。初診時、「父が糖尿病だったので、気にはしていました。健康診断では血糖値はやや高めでしたが、受診を勧められることはありませんでした。父は、薬は飲んでいたようですが、特に食事を制限したり運動したりしている様子もなかったの、もし自分が糖尿病になっても大丈夫だと思っていました。糖尿病については特に調べたことはありません。」との発言があった。診察の結果、まずは食事療法と運動療法で血糖値の改善を図るという指示が医師より出された。身体所見:身長 173cm、体重 73kg

この患者への初診時の対応として正しいのはどれか、2つ選べ。

1. 患者と良好な関係を築くために、訴えをよく聴き共感した
2. 糖尿病についての知識がほとんど無いようだったので、必要な情報を全て提供した
3. 療養指導に活かすため、糖尿病をどのように受け止めているか確認した
4. 治療を継続しないと合併症を発症し、失明や透析になってしまうことがあると伝えた
5. 食事指導は本人にのみ行うことにした





第66回日本糖尿病学会年次学術集会

令和5年5月11日(木)～13日(土)

城山ホテル鹿児島 他

〔当法人会員〕

八王子糖尿病内科クリニック

小池 真由美〔看護師〕

第66回日本糖尿病学会年次学術集会が5月11日から13日の3日間、鹿児島にて「糖尿病学維新」というテーマで開催されました。私自身が3年ぶりの現地参加でしたが、5月8日からCOVID-19が感染症分類5類になったこともあってか、会場には多くの方がいらして活気が戻ってきている様に感じました。

その中で、昨今話題である「糖尿病とスティグマ・アドボカシー」のシンポジウムに参加し、6名の先生方の講演を拝聴し、とても考えさせられたものがありました。糖尿病を持ちながら生活する人に対するスティグマについて、数年前から話題になっていることは皆さんご存知のことかと思いますが、これに対するアドボカシー活動を日本糖尿病学会と日本糖尿病協会が2019年8月より実施しています。特定の属性に対して刻まれる負の烙印であるスティグマですが、「怠惰な生活をしているからなる」「不摂生」「だらしない」「自己管理ができない」という糖尿病に対して社会が持っているスティグマのために、糖尿病であることを周囲に隠し、そのために適切な治療の機会を失うことで重症化してしまう。それが医療費の増大や社会保障を脅かすという悪循環に陥ることから、このスティグマを減らし、糖尿病を持つ人が安心して社会生活を送ることができる様にしようというアドボカシー活動が行われています。スティグマには公的スティグマだけでなく、自己スティグマ、構造的スティグマがある様に、糖尿病に対するスティグマの中には社会が持っているスティグマだけでなく、「糖尿病である自分は何をやっても上手くいかないんだ・・・」と自分に烙印を押してしまうようなセルフスティグマの他に、医療者が患者さんに対して持っているスティグマもあります。今回のシンポジウムの中で、看護実践におけるアドボカシー活動というテーマで、山梨県立大学の米田 昭子先生がご自身の臨床での経験を元にお話された内容に、私自身も襟を正された思いでした。先生は、糖尿病を持ちながら生活する人に関わる医療者の中には、「なぜ、ここまで悪くならないうちに、ちゃんとやってこなかったのか」という疑問を持ち、患者さんを責める様な思いを抱いたり、支援を行いながらもなかなか行動変容に繋がらない人を前にした時に「なぜ、こちらの助言に沿って生活の仕方を変えないのか」「ちょっと変えるだけで血糖が良くなるのに、どうして自己管理しないのか」と思ってしまうことがある。しかし、その人の生活は何十年もかけて確立されてきたものであり、その生活の中に何かを加えたり、その生活から何かを削除することは、その人にとって「ちょっと」のことではないと話されていました。日頃私たちが前にしている方達は、糖尿病患者である前に、生活者であること。病院に来ている時は糖尿病患者として見られているが、病院を一步出れば社会生活を営んでいる一人の人であること。その人が糖尿病を持っているというだけであること。「一人ひとりにその人の生活があり、その生活の中でその人がどの様にしたら上手く糖尿病と付き合いながら生活を送ることができるか」という視点で、支援をしていくことが糖尿病を持ちながら生活する人を支援する私たちが持っているべき、大切な視点であると改めて感じました。



余談ですが、人生で初めて鹿児島の地に降り立ち眼前に見た桜島は、壮大でとても迫力のあるものでした。また、黒豚や鶏刺、白くまなどご当地の物に舌鼓を打ち、温泉に入ったりと鹿児島を少しですが満喫することもできたのも、とても良い思い出になりました。しばらくオンラインだけでの学会参加が続いていたため、やはり現地に行きリアルで参加することの素晴らしさを色々な面で感じたそんな学会でした。

第66回日本糖尿病学会年次学術集会は5月11日(木)～13日(土)に、鹿児島県鹿児島市の城山ホテル鹿児島、かごしま県民交流センター、宝山ホールで開催されました。昨年に引き続き現地開催でしたが、シンポジウムなどの一部プログラムはLIVE配信やオンデマンド配信もありました。

私もコロナ禍でしばらく縁の無かった飛行機に乗って、現地で発表を行いました。糖尿病学会は、規模が大きく、会場がいくつもあることが多いと以前にも聞いたことがあったのですが、今回は3か所会場があり、会場の間はそれぞれ学会専用シャトルバスで15分～20分かかるため、会場移動が少し大変だと感じました。発表内容としては院内で3年ぶりに開催した糖尿病予防フェスタについて、糖尿病療養チームを代表して発表を行いました。

聴講では、糖尿病療養指導のチーム医療や栄養指導、薬物療法などを聴講しました。興味深かったシンポジウムとしては2020年に改訂された「食品成分表8訂のコンセプトの理解と糖尿病食事療法への応用」です。8訂では糖尿病にも大きな関わりのある炭水化物が細分化され、エネルギーの算出方法が変更となっています。7訂までは炭水化物のエネルギー量は100g(他の成分値)で算出され、4kcal/gでしたが、8訂では「利用可能な炭水化物」は3.75kcal/g、「食物繊維」は2kcal/g、「糖アルコール」は2.4kcal/gとなり、全食品単純計算でエネルギー値が約9%減少していますが、食物繊維の多いきのこ類や海藻類では12%増えています。食品成分表というと、管理栄養士以外の職種には馴染みが無いかと思いますが、シンポジウムとして食品成分表の改訂が取り上げられていたのは興味深いと感じました。

演題発表以外にも企業ブースでは、腹部にベルトを巻いて内臓脂肪面積を測定する機器や、血圧計のようなもので血管年齢を測定する機器なども実際に測定体験もさせていただきました。

そして学会出張のお楽しみとしてはやはり、その地方のグルメを堪能することではないでしょうか？私は一緒に参加した糖尿病チームの先生達と鹿児島の海の幸を堪能しました。お店に生簀があり、魚や海老などを生き造りにしてくれるのですが、特に「ぞうりえび」という海老の生き造りが見た目も味も衝撃的でした。身は捌かれている状態なのに、頭と尻尾がまだ動いている状態を可哀想に思いつつ、身がとても甘くて美味しく、現地参加だからこそ味わえる味だなと有り難くいただきました。

糖尿病療養指導士の資格を取得してから、約10年になりますが、昨年からは糖尿病療養チームの一員になったことをきっかけに今回初参加となりました。知識のアップデートや発表を行うことで、自身の業務を振り返るきっかけにもなり、今後も参加して行きたいと思っています。来年は東京開催となります。皆で是非参加しませんか？

武蔵野赤十字病院
佐々木 佳奈恵 [管理栄養士]



読んで
単位を
獲得しよう

答え **1, 3** 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 1. ○

2. × 患者と医療スタッフ間での信頼関係が確立されるまでは、患者に対して否定的な感情や一方的な働きかけは避け、患者の感情や考えを傾聴し共感する事が大切。
3. ○
4. × 初めて診断された患者に合併症の正しい情報を伝えることは大切だが、患者の恐怖心をあおるような言い方は、今後の治療に悪影響を及ぼす可能性もある。むしろ治療を中断しなければ、合併症の発症や進行を予防できることも説明する。
5. × 療養指導は家族や取り巻く人々の支援が重要であり、食事療法は家族の同席を勧めた方が良いこともある。この患者は妻が食事を作っており、妻にも同席を勧めると良い。

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第24回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

 申込必要

期間：2023年9月5日（火）第1講開講 以降12月5日（火）まで計14回実施

時間：19:00～20:30

参加方法：Zoomにて開催いたします

受講料：当法人会員 12,000円 / 一般 20,000円（全14回講義分として）

申込：当法人ホームページ <https://www.cad-net.jp/> よりお申し込みください（10/2締切）

※詳細は、「新着情報」の「第24回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」をご確認ください

 オン
 ライン

【聴講制度のご案内】 聴講制度によりLCDE認定者も受講可能です。養成講座を受講されると40単位を上限とし、1講義出席につき4単位取得できます。

マイページ内の聴講制度に関する掲示より、Web決済にて受講料をお支払いください。（10/2締切）

※受講料は、全14講義分一括納入のみとなります。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：1講義につき4単位

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

 第22回糖尿病予防講演会

 申込不要

テーマ：『生活習慣を科学的に見直そう』

開催日：2023年9月2日（土）14:00～17:25

場所：武蔵野公会堂・ホール（JR中央線「吉祥寺駅」下車 徒歩2分）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位

 参加費
 無料

 第14回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

 申込必要

テーマ：『コロナ禍で知った糖尿病運動療法のニューノーマル』

開催日：2023年10月22日（日）8:30～17:00

場所：北里大学薬学部 2202大会議室（2号館）・体育館（アリーナ等）

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：当法人会員 6,000円 / 一般 8,000円（いずれも昼食代込み）

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（10/8締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な必修単位＜講義/実習＞：計6.3単位申請中

 第40回武蔵野糖尿病研究会

 申込必要

開催日：2023年10月28日（土）18:20～20:00

参加方法：Microsoft Teamsにて開催いたします

参加費：Web参加 無料 / 会場参加 500円

申込：プログラムに記載のURLよりお申し込みください（10/20締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

 ハイブ
 リッド

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/> Email:info@cad-net.jp

編集後記



今年の夏も猛暑日の連続で、患者さんとの会話も、とにかく暑いですね、といった挨拶から入り、熱中症対策の話をする事も多くありました。食事や運動が普段通りにはできなくなっている方も多くいらっしゃったかと思います。この広報が発行される頃はまだ残暑が厳しいでしょうか。最近、快適な季節が少なくなっているように思いますが、少しずつ暑さが和らぎ過ぎやすい季節になると良いですね。
 （広報委員 永田 美和）